

海外進学を目指す 高校生へのメッセージ

おおさかグローバル塾

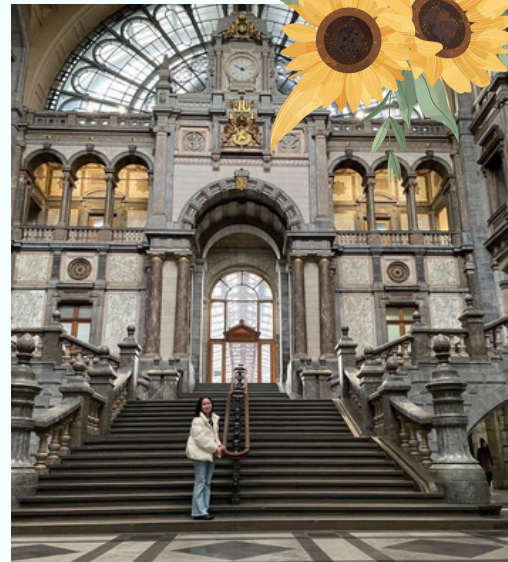
2023年度修了生

山田 空さん

Rotterdam university of applied science (オランダ)

オランダの大学で学び始めてから1年が経ちました。

渡航前、私は憧れのヨーロッパ、オランダの多文化な環境での生活や、世界中の学生との交流に期待が膨らんでいました。しかし、現実には想像以上に厳しく、入学に必要な最低限の英語力は満たしていましたが、授業で交わされる専門的な議論や、友人との日常的なコミュニケーションについていくのが精一杯でした。



クラスメートが活発に意見を交わす姿を見るたびに、

“自分もあんなふうになりたい、いつかなるんだ”と思う一方で、“どうすれば自分の意見を英語で伝えられるんだ、一年生が終わる頃に自分は本当に成長しているのだろうか。”と自信を失い続けていました。授業で教授が話している最中に臆することなく自分の意見を述べるクラスメートの姿は、大きな刺激であると同時に、自分がまだまだだということを突きつけられる日々でした。“とにかく話すこと”が重要だと頭ではわかっているにもかかわらず、実践に移すのは簡単ではありませんでした。精神的なストレスも重なり、人前で英語を話すことへの抵抗感も強くなっていました。この時期は授業の復習を徹底し、予習で専門用語のボキャブラリーを増やすことにしました。予習によってわずかなではありますが授業への参加意欲も高まっていきました。

時間と慣れが一番この問題を解消しつつあり、やはり辛抱強さが私にとっては長所で、英語に対するストレスも減りました。意識的に話す練習の機会を作り、授業でのグループワークでは、たとえ簡単な一言でも自分の意見を言うように心がけ、友人といるときは文法や発音を気にし過ぎずに、知っている言葉を並べてでも自分の気持ちを伝えていました。こうした地道な努力を続けて半年、ようやく気持ちに変化が生まれました。

肩の力を抜いて、友達とたわいもない話で笑えるようになり、授業でも自分の意見を少しずつ言えるようになったのです。一年たった今やっと、英語が私にとって、ただの学習対象ではなく、自分の感情や考えを表現するためのもう一つのツールになったように感じています。まだまだ流暢で完璧なイングリッシュスピーカーには程遠いですが、言葉が通じる喜び、そして英語での自分を表現できる自信が何よりも大きな収穫です。



文法や発音を気にしすぎるよりも、まずは“とにかく伝えてみよう”という気持ちを持って、毎日英語漬けの環境にすることで、自然に言葉が身についていきます。異文化の中で新しい価値観に触れ、自分を試し視野を広げる経験は貴重で、楽しい思い出になります。

このメッセージが、これから海外での挑戦を志す人の参考、助けになれば嬉しいです。